



# 若狭・三方五湖 ツーデーマーチ

鯖街道の宿場町として栄えた熊川宿やラムサール条約登録湿地の三方五湖をウォーキングする「第19回若狭・三方五湖ツーデーマーチ」が5月15日(土)、16日(日)の両日、三方グラウンドをスタート・ゴール地点として開催されました。

この大会には、北海道から沖縄まで全国各地から昨年より約200人多い5,228人が参加し、7, 10, 20, 40kmのコースで新緑の若狭路を楽しみました。



Saturday



▲くずまんじゅう



▲熊川宿



▲長操鍋



三方小5年吉田真菜さん、青池舞美さん、増井美鈴さん、木村汐里さん、6年木村洋香さん。お母さんの木村千鶴さん。  
「10km歩いた。完歩できてうれしい。足がジンジンいたい。日曜は20km歩く。」

## 燃える新緑 はずむ足どり



## 全国から5千人超 新緑の若狭路を遊歩

Sunday



▲縄文ロマンパーク



▲水月湖畔



▲露店でいっぷく



1日目土曜日は、上中地域を巡るコース。瓜割名水公園では同管理組合がくずまんじゅうを、熊川宿では熊川区が名物「長操鍋」を振る舞い、参加者をもてなしました。

2日目は、三方五湖周辺を巡るコース。参加者は、湖畔を渡る風に新緑の息吹を感じながら、水と緑豊かなのふるさとの良さを再発見していました。



三方中ALTのマリッサさん(右)と県内ALT仲間。「去年は40km歩いた。ちょっと足が痛い。でも元気です。湖の周りの緑がきれいです。」



福岡県から参加の森幸二さん、加代子さん。「7回連続参加している。愛犬のクス、コマ、カコ、キララ、カブの5匹と一緒に2日間とも10kmを完歩。自然豊富なコースがたいへんいい。」



みそみ小2年高橋史弥さん、高橋優羽さん。「2回目の参加。7km歩いた。疲れた。ひざのあたりが痛い。かかとの上が痛い。おかあさんと一緒に歩いた。」

# わかさ あじさい



▲選手宣誓

上中中学校2年 田中 健大さん

過去最多

## 2,427 人が初夏の若狭路を快走

「第6回わかさあじさいマラソン」が、6月6日(日)、野木小学校を発着点に開催されました。

今回は、北海道から福岡まで全国各地から過去最多の2,427人がエントリー。昨年は新型インフルエンザの影響で中止となったため、2年ぶりの大会となりました。

コースは、2、3、5、10km、ハーフの男女・年齢別などの15部門。ゲストランナーにシドニー五輪銀メダリストのエリック・ワイナイナさんを迎え、参加者と交流を深めました。



# マラソン



▲滋賀県からチームで参加



▲ワイナイナさんに  
追いつけ、追い越せ



▲物産協会が地物産品販売



▼ワイナイナさんのサイン、握手会

▲女性ネットワーク豚汁サービス



▲2km 親子ファミリーの部 1位

野原大地、ジョバンニ・ムニッキ親子  
「昨年9月にイタリアから帰国。美浜町在住。今回初めて参加した。練習する時間がなかったけど1位になれてうれしい。」

## 【町内の入賞選手】

3km 一般女子	4位	松岡由花さん
〃	5位	三宅直美さん
5km 一般女子	1位	西 初美さん
5km 中学男子	6位	田中健大さん
5km 39歳以下男子	5位	藤本良晴さん
〃	6位	中村勝則さん



# まちの話題

WAKASA TOWN NEWS



▲舞踊を披露する山内真弓さん

## 海から学ぼう

若狭三方五湖わんぱく隊 (5/27)

県外の中学生などが干物づくりや定置網見学、漁村住民との語らいなどを通じて、海辺の暮らしを学ぶ海の教育旅行－若狭三方五湖わんぱく隊がはじまりました。

この日体験したのは、岐阜県・登龍中学校2年生95人。生徒たちは地元漁師の指導を受けながらアジの干物づくりに挑戦。アジを開いて、塩をまぶす一連の作業に取り組みました。

この若狭三方五湖観光協会が企画する教育旅行には、5・6月の春季で昨年より200人以上多い、過去最多の約4,800人が訪れる予定。海辺での楽しく貴重な体験をもとに、大人になってからも若狭町を訪れてくれることに期待が寄せられています。



▲釣り上げたブラックバスを観察する参加者

## コップンカー、サワディー

鳥羽小学校でタイ文化交流会 (5/10・11)

タイ在住の山内恵二さんと長女の真弓さん(8歳)家族が、タイの小学校の長期休暇中に来日し、鳥羽小学校へ体験入学しました。

山内さん家族は、町内の知人宅に滞在。真弓さんは近所の子どもたちと一緒に登下校しました。

鳥羽小では、この機会を活かそうとタイ文化交流会を企画。真弓さんはタイの民族衣装を着て舞踊を披露し、タイの学校やまつりの様子も紹介しました。

鳥羽小の先生方は、「子ども同士の国際交流は初めてのこと。子ども同士なじんだ様子で、外国の文化にも刺激を受けた様子」と話していました。



▲地元漁師から魚のさばき方を教わる生徒

## ブラックバスを捕まえよう!

三方五湖自然教室 (5/29)

湖のギャングと呼ばれる外来魚「ブラックバス」の生態系への影響について考える三方五湖自然教室が、はず川河口で開かれました。

この教室には、町内外から約50人の親子づれが参加し、カゴや釣りでブラックバスの捕獲に挑戦。

福井から参加した親子が約50cmの巨大なブラックバスを釣り上げ、福井県海浜自然センターの職員が胃の中を確認。丸飲みされたアメリカザリガニやおたまじゃくしがあらわれ、参加者はそのどう猛な生態に驚き、生態系への影響を実感した様子でした。



▲青梅の直売で賑わう青梅まつり

## 福井梅 皇室へ、ご家庭へ

青梅まつり (6/13)・青梅皇室献上 (6/14)

梅の産地を広くPRするため、「青梅まつり」がJA梅の里会館で開かれました。今回のまつりは、若狭町梅振興連絡協議会が梅の出荷時期としては初めて開催。

まつりでは、青梅が市価より割安で直売されたほか、梅果汁や梅酒などが販売されました。また、梅おにぎりや梅ババロアが無料で振る舞われ、大勢の来場者で賑わいました。

このまつりのオープニングでは、皇室に献上する青梅の選果作業が行われ、JAと町職員が鮮度や色合い、熟度がよく、キズのないものを一粒ずつ厳選。14日には、森下町長らが三笠宮家、常陸宮家へ梅を献上し、三笠宮家を通じ天皇家へも届けられることになっています。

## 世界と握手！

中国・上海万博出展へ (6/11)

玉置の現代美術作家・松宮喜代勝さんが中国・上海万博に出展する作品づくりをすすめています。

日本貿易振興機構の公募で選ばれ出展するもの。作品は「恋人と握手」「地球と握手」など3点で、「恋人とー」は高さ1.3m、柱の上部に地球を表す赤い玉をのせたもので、玉にあけた穴の中で握手ができるようになっています。また「地球とー」は高さ2.6m、地球を表す玉を5本の指でささえるもの。

これらの作品には、一般の人が陶土をにぎった「にぎりオブジェ」がはりつけてあり、町内の小学生がにぎったものも含まれています。

松宮さんは、「住民参加アートを通じて、世界の人の交流につなげていきたい」と話していました。作品は、9月20日～22日の3日間、上海万博の日本館に展示されます。

▲「恋人と握手」作品の最後の仕上げ  
握手ができる穴に手を通す松宮さん(左)

▲はにわの感触を確かめる児童

## タイムトリップ！

瓜生小学校で古墳の出前授業 (6/11)

瓜生小学校5、6年生を対象に、古墳について学ぶ出前授業が行われました。この授業は、学校の近くにある古墳をもっと知ってもらおうと、若狭町・小浜市協同の文化財総合的把握モデル事業の一環として町が企画。

若狭の古墳研究の権威で、花園大学の高橋克壽教授、韓国・慶北大学の朴天秀教授、若狭高校の入江文敏教諭が講師を務めました。

授業では、高橋教授らが、はるかいにしへの時代に思いをめぐらせてもらいたいと、画像やはにわを使って古墳について説明。

児童からは「はにわは何種類？」「重さは？」「日本の古墳の数？」などの質問が飛びだし、身近にある歴史的遺産の価値を再発見していました。

## 水月湖プロジェクトの最先端 ～湖の土が

ここまで解き明かす～  
湖底に眠る堆積物から地球の  
気候変動を探る

去る5月18日～20日までの3日間、「水月湖プロジェクト国際会議」が水月湖畔の「水月花」で開催されました。

この会議は海外及び日本の研究者23名の方々が滞在され、水月湖の「年縞(ねんこう)」の調査分析等に関し、今後の方針を立てるために開かれたものです。

このプロジェクトでは、2006年夏に英国ニューカッスル大学 中川毅教授によるチームが、水月湖の中央部に直径約8cmのパイプを湖底下約7.3mまで打ち込んで湖底土を採取されました。

今回はその学術調査の発表

も行われました。

5月18日には町民の皆様方を対象に、第1回歴史環境講座が開催され、中川教授、ヘンリー・ラム准教授(英国アベリストウィス大学)のご講演をお聞きいたしました。

そこで発表された研究成果の1つ目は、氷河期の終わりを特定できたこと。

2つ目は、水月湖は学術的に大変重要な湖であること。

3つ目は、約15万年分もの長い期間、樹木の年輪のように形成された「年縞」が堆積している湖は、世界でも数少ないこと。

4つ目は、「年縞」を1枚ずつ数えて、そこに含まれている珪藻のほか、花粉や種子、葉、火山灰、黄砂などを分析すると、周辺の植生、森林の変遷、気温、水温、海面の高さの変動、洪水や地震の発生まで知ることができること。

5つ目は、氷河期が終わって、そこから始まる縄文時代

には気候が安定し、人々は穏やかな暮らしを手に入れて農耕文化を開いていったこと。

講演の最後に中川教授は「世界的な価値を持つ古環境のデータが知りたければ水月湖の土を見る」と今後アピールしていきたいと締めくくられました。

私たちはこの三方五湖の自然を大切に守り続けることはもちろん、ロマンを多く含んだ水月湖を理解し、若狭町にはこんな素晴らしい、世界に誇れる財産があることを認識していかなければと思っております。

現在、組織再編でスタートした縄文環境室のスタッフを中心に、この貴重な財産をどのようにいかしていくか検討を重ねております。

町民の皆さんでこんなこともやってみたらどうか等、アイデアがありましたらご一報いただければ幸いです。

## 広報クイズ

### ■応募方法■

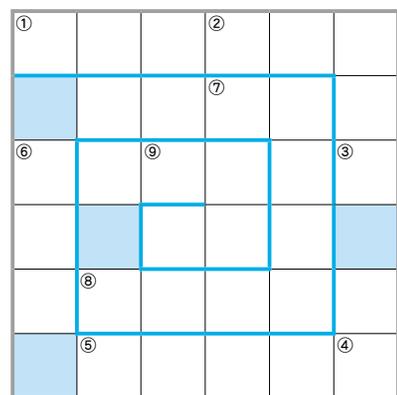
キーワードを解いて、しりとりをしながら右回りにことばを入れてください。4つある青いマス(マス)の文字を並びかえると、答えになります。ハガキに答えと広報紙の感想やご意見、住所、氏名を書いて、「〒919-1393 若狭町役場企画情報課」(住所は省略可)まで送ってください。E-mailでも受け付けます(kikaku@town.fukui-wakasa.lg.jp)。正解者の中から抽選で5人に図書カードが当たります。当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。

締め切りは7月15日(木)必着です。

### ☆しりとりのうずまきクイズ☆

#### ◇キーワード◇

- ①セタと書く。7月7日は
- ②魚のタラの漁場と重なることに由来するカニ
- ③肩からひじまでの間の部分
- ④感受性が強く、繊細なさま
- ⑤牛と牛をたたかわせる競技
- ⑥海水浴場をその年初めて開放すること
- ⑦自動支払機で銀行預金をおろすカード
- ⑧相撲をとる場所。土をつめた俵(たわら)の意。
- ⑨昔の知恵。涼をとるために道などに水をまくこと。ヒートアイランド現象対策に一役



#### 【ヒント】

国民の祝日

7月19日は?

《答え》〇〇〇〇

広報クイズ6月号の答え 『だんじょ』

- ①あじさい ②インターネット ③とうきょう ④うえの ⑤のこぎり  
⑥りんじ ⑦ジオパーク ⑧くらのすけ ⑨けんだま ⑩マイスター

# Happy BIRTHDAY 3歳です

このコーナーでは、7月に3歳を迎える町内にお住まいの男子・女の子に登場していただいています。ご応募いただいた方のみ掲載しています。

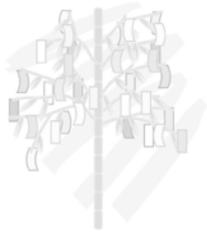
今回は平成19年7月生まれの3歳になるお子さまです。



**坂本 瑛飛くん**  
 えいと  
 7月4日生まれ（北庄）  
 親：将悟・明子さん  
 働く車が大好き☆元気いっぱい  
 食いしん坊な瑛飛です！



**岩本 みりちゃん**  
 7月28日生まれ（能登野）  
 親：真吾・さつきさん  
 やんちゃなみーちゃん☆  
 来年にはお姉ちゃんになるよ



次回は平成19年8月生まれのお子さまが対象です。  
 掲載ご希望の方は、写真と25字以内のコメント、生年月日、ご両親のお名前、連絡先を添えて企画情報課または上中サービス室へ提出してください（E-mailでの送付も可）。  
**7月5日（月）必着**です。  
 ●問い合わせ 企画情報課 TEL 0770-45-9110  
 E-mail: kikaku@town.fukui-wakasa.lg.jp（E-mailの場合は受信確認のため、必ずお電話ください。）

冠句	川柳	短歌	俳句
<b>若狭町冠句の会</b> 鮮魚市ドラマ始まる港町 正義漢信んずる通を突き通す	<b>ほつと川柳</b> きつちりと束ねた髪の自己主張 水ぬるみ青春ドラマ廻り出す それなりに自作自演を演じきる ピエロにも演じ切れない国会だ	<b>上中短歌会</b> 水事場に逝きたる嫁をしのびつつ あれこれ迷う夕餉の支度 成っただけ食べる生活の梨の花 人工授粉をすることもなし 湖と山相向かふ里に住まふるに 時に恋しむ菅の湖 忙しくなりぬ古き葉散りて 若葉どきめぐり来たりてわが生活	<b>海士坂俳句会</b> 昭和まだ近しと思ふ終戦日 夏木立若狭連峯晴れ渡る 擦れ違う人も嬉しき一年生 一斉に大地の醒め春時雨 大鳥羽山水俳句会
今川 佳宵（鳥浜） 江戸須磨子（横渡）	堀口 光江（兼田） 三木 利美（天徳寺）	桑原 寿美（兼田） 奥本 守（下吉田）	須磨 悌（気山） 大崎 常子（気山） 田村 初枝（海士坂） 竹内 周山（海士坂） 小林 夕夏（大鳥羽） 桧鼻澄美江（大鳥羽）

## 広報文芸